

禾生地区 其の二

神社名 稲村神社
鎮座地 都留市小形山一五六五番地

明治五年五月村社となる。

昭和六年九月三日神饌幣帛供進指定神社となる。

甲斐国社記に

〔稲村山高岩四所大明神〕 小形山村

素盞鳴命、少彦名命、大己貴命、菅田別命、となっている。

山梨県市郡村誌には

〔稲村社〕 村社々地東西貳拾九間四尺五寸南北三拾壹間四尺八寸面積九百四拾六坪本村北方小形山組ニアリ祭神未詳祭日三月十五日七月廿一日社地中樺大樹三株囲三丈三尺五寸云、とある。

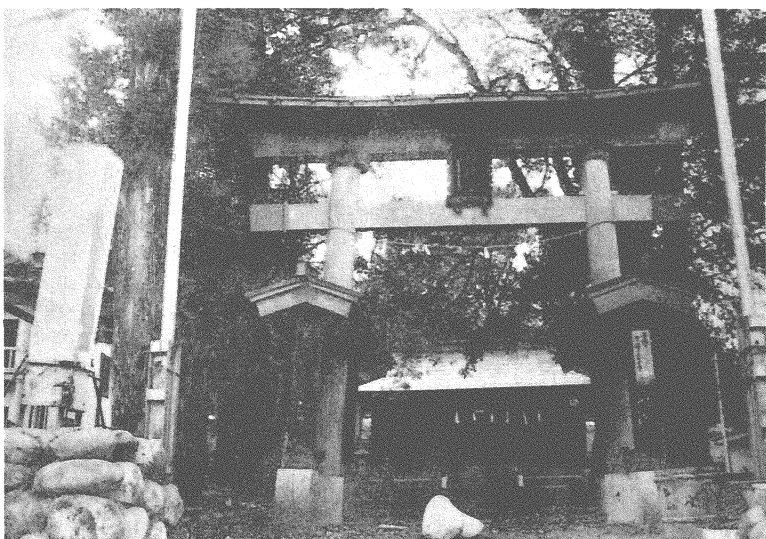
また

甲斐国志には

一〔稲村明神〕小形山村 本村産神ナリ、神領三反四畝貳拾九歩 神主 平井伊織、となっている。

社 殿

本殿 流造り一間社朱塗、トタン葺、
拝殿 五間Ⅱ三間、
廊下 一間半Ⅱ二間、
神庫 一棟 切妻トタン葺 一間Ⅱ二間、
鳥居 木造一基、
神灯 二対 一対は昭和五年十二月吉日 献納 鈴木寛一・鈴木安浦とあり、



祭 神

日本武尊
(南鶴神社誌による)
磐筒男命
磐筒姫命
国常立命
(以上禾生村郷土誌による)

例 祭

四月十五日
九月三日

由 緒

大同四年(八〇九年)日本武尊の徳を慕って造営し勧請奉祀するようになった。

現在の社殿は、正徳四年(一七一四年)に再建されたものであることが、大正四年屋根替えのとき棟木に書かれた文字によって確認されている。
鳥居の額字は、甲府住吉の神主加賀美光章氏の書いたものであるという。

一対は昭和十六年十月吉日 西桂村 山崎幸蔵とある。

境内は広く、祭礼のときは店が並ぶという。昔は非常に賑やかで、神楽、神輿、山車など神事行事が一週間にも亘って盛大であったとのことである。しかし、今は質素である。

本殿の左後方に忠霊碑が建立されているが、その傍に文部省指定天然記念物であった小形山の大樺記念碑が建立されている。

また、境内に藤村式もと尾懸尋常小学校舎があるが、現在は県の文化財の指定をうけ、都留市の資料館として広く利用されている。

神社名 三島神社

鎮座地 都留市田野倉一四四番地

祭 神 事代主命

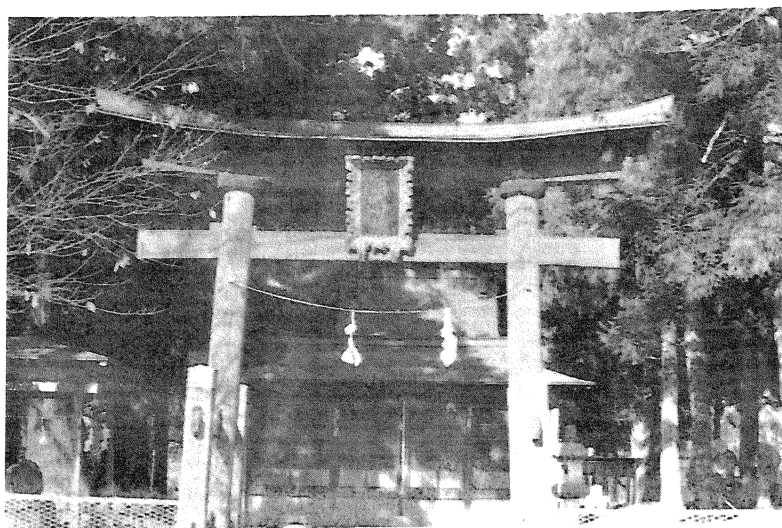
(南鶴神社誌による)

大山祇命

(甲斐国社記 山梨県市郡村誌 による)

例 祭

四月十一日
九月五日



もとは三月十八日、七月十八日であった。

神事用具

神楽、神輿保存。

由緒

創立年代は古く、貞観七年（八六五年）七月十八日であるという。明治三十八年に火災にあい、社殿、古記録等すべて焼失してしまった。

甲斐国志に、
一〔大松山三島明神〕田野倉村 本村産神ナリ、社地縦六拾間見捨地、祭礼三月十八日七月十八日相伝フ大松山ニ古大木ノ古松アリ伐リテ三段トナシ三島明神ノ神像三体を作り其本木ノ像ヲ当社ニ奉ル。故ニ至今号ニ先ノ宮中段ヲ大月、駒橋ノ間ニ祭り中ノ宮ト云末段

ヲ殿上村ニ祭ル下ノ宮ト云故ニ三社共ニ大松山ト称ス云 と記されている。

また

甲斐国社記には

〔大松山三島大明神〕田野倉村 祭神大山祇命、とある。

山梨県市郡村誌に

〔三島大神社〕 村社々地東西三拾六間南北三拾間面積千八拾坪本村東北田野倉組ニアリ祭神大山祇命云、とある。

社殿

本殿 彫刻はないが壮大な感じがする、流造りトタン葺 一間半 Ⅱ 一間半。

拝殿 入母屋トタン葺 四間Ⅱ二間、俳句の掲額があり、中の天

井は一枚毎に紋章等が描かれている。

鳥居 木造一基

神灯 一對

社殿至る所に「千社札」が貼つてある。

境内社

社殿に向つて左側に、流造りトタン葺三尺Ⅱ三尺の社があるが、祭神不明御神体は丸石である。

社殿に向つて右側に不動明王が祀つてある。

なお境内に、明和七寅年（一七七〇年）霜月二日施主中村半兵衛による天下和順廻国千人供養塔、明和二酉（一七六五年）十二月二日施主小俣氏、都倉氏同行四人による坂東四秩父巡礼供養塔が建立されており、更に天保十二丑（一八四一年）十二月吉日南無阿弥陀仏の碑がある。

偏額の「三嶋大明神」の彫刻は、天明九年（一七八九年寛政元年）勢州藩士源藤七彫刻と額の下方に銘記してある。現在の社殿は大正九年十月再建したものといわれている。

神社名 御嶽大神社

鎮座地 都留市田野倉一四四番地

祭神 大己貴命

例祭

九月五日 例祭日

神事用具

神楽、子供神輿保存。

由緒

江戸時代、宝暦六年（一七五六年）、山野倉に悪病が流行し、村



人が不安におののいていると、白髭の老人が現われて村人たちに対していうのに、「大己貴命を祀れば悪疫平癒は疑いなし」と告げて消えたので、これを信じた村人が社殿を造り大己貴命をおまつりした。するとひと月あまりして悪疫は

退散してしまつたと伝承されている。

甲斐国志には

一〔御嶽権現〕同村 社地縦拾間横八間 見捨地 祭礼三月十一日、八月十一日と記されている。なお同村とあるは、大松山三島明神を祀る田野倉村と同じ村であるという意味である。

社 殿

本殿は玄武岩の石造りで流造り。

拝殿は入母屋トタン葺 四間Ⅱ二間、

鳥居一基 木造

神庫一棟 切妻トタン葺 一間Ⅱ二間。

鈴 一

神灯一對 明和二年^{己酉}(一七六五年)十一月吉日と刻まれている。

境内社

浅間大神 明治四十年十二月四日建立 村上総講中 と刻まれた

富士の形をした石造碑である。

蚕神保食之大神 大正七年二月十二日建立 とある。

龍田大六天社 木造流造方三尺社。

神社名 熊野大神社

鎮座地 都留市田野倉一三〇〇番地

祭 神 伊弉册尊

例 祭

十月二十日

三十七間見捨地別当修験円林坊。と記されている。

社 殿

流造りトタン葺 三尺Ⅱ三尺

境内社

大六天社一字 石造り小祠。

傍らに榊の大樹二株あり。

熊野大権現社は、もと中野原にあったが、戦後旧龍田大六天社の社地であった現在地に奉遷されたとのことである。

中野原には、今もなお七〇坪の社地が保有されているといわれている。

神社名 八王子神社

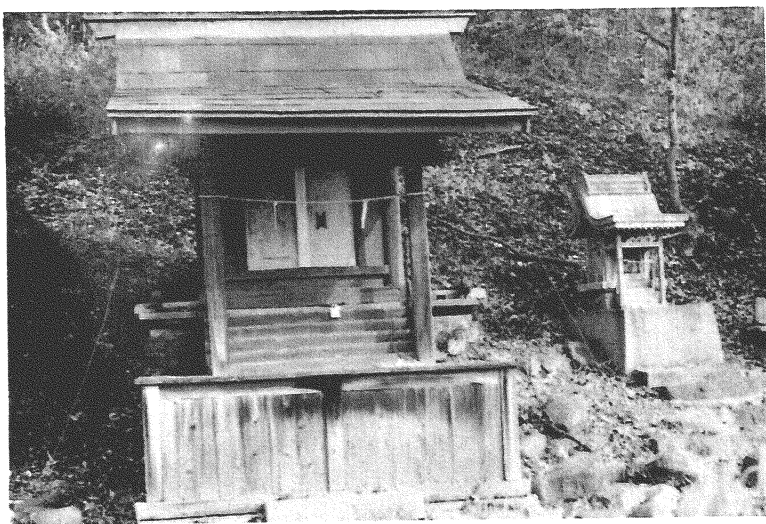
鎮座地 都留市古川渡八九一番地

祭 神 正哉吾勝々速日天之忍穗耳命。

天津穗日命、天津彦根命、活津彦根命、熊野櫛樟日命、

田心姫命、瑞津姫命、市杵嶋姫命、

以上のうち五人の男の神様は、天照大神のまが玉から、三人の女の神様は素盞鳴命の劔からそれぞれお生まれになら



由 緒

ふつう「ごんげんさん」と称し、田野倉地区の産神である。

南鶴神社誌によると、「当村にては昔から毎年二人宛の代表が、伊勢神宮に参詣する。寛延元年(一七四八年)伊勢神宮より神木をいただき尊像を刻み社殿造

営奉斎する。境内地四九一坪」

とある。

甲斐国志には

一〔熊野大権現〕同 祭礼三月廿日。

〔大神宮〕 祭礼三月廿日。此二社同地ニアリ社地縦四拾間横

れた。

これらの神々は、水田開拓をつかさどる神々であるとして祀られた。

例 祭

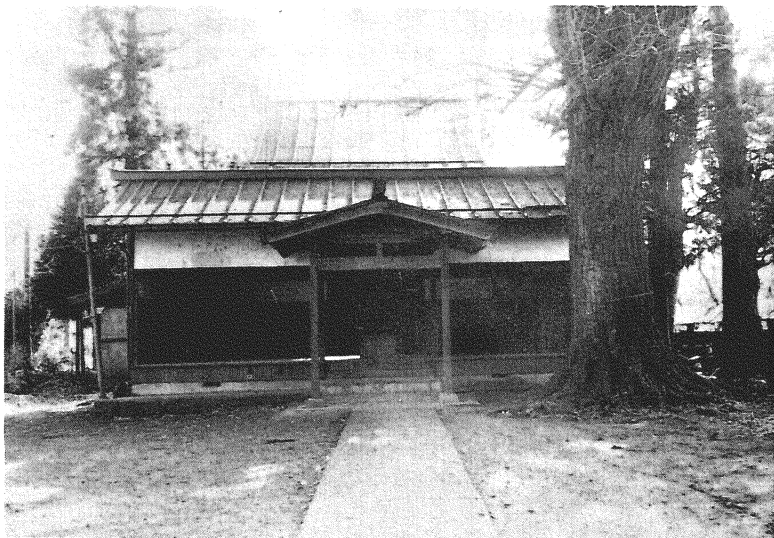
四月二十一日、九月三日。

神事用具

神楽保存、この神楽は歴史が古い。

由 緒

よると、養老年間(七一七―七二三)に僧行基がこの地方に来て、三世一身の法を以て姥沢河原より水路を得て開田を思いつき、五男三女の神々を祀り祈願した。その後約千年を経て、宝暦九年(一七五九年)現在地に社殿を造営したといわれている。明治五年五月村社に列せらる。



昭和五年九月一日神饌幣帛供進指定神社となる。
山梨県市郡村誌に

〔八王子社〕 村社々地東西八間三尺南北貳拾貳間面積百八拾七坪本村東西古川渡組ニアリ中略 社地中イチヨウノ大樹老株アリ
囲老丈五寸。とある。

甲斐国志には

一〔八王子権現〕古川渡村 本村氏神社地百四十四坪除地ナリ神領貳畝
十四歩神主同上。と記されている。

社 殿

本殿 流造りトタン葺、彩色されている。二間〓二間半。

両屋 切妻トタン葺、向拝造り。五間〓三間と広く大きい。

鳥居 木造一基

神灯 一对 文化三丙寅（一八〇六年）歳施主近藤九良左エ門と
刻まれている。

神庫 一棟、切妻トタン葺、一間〓一間半。

境内中に、大樺あり（囲7m 20cm）

また大銀杏（囲4m 55cm）がある。

境内社

二社。うち一社は四社が合祀されている。

開田と八王子神社

五男三女の神様を祭神として祀り、これを八王子神社と尊称し水田開拓の神

である。
その縁由も深く、土地豊穠にして『禾を生ず』の古言に因んで『禾生村』と
命名されたのである。
しかし一般の人はこのことをよく知らないで、通称『八王子権現さん』と
呼んでいる。
子供の神様としての信仰が厚く、それによる風習も残されていると古老は語
っている。

神社名 天神社

鎮座地 都留市古川渡八二五番地

祭神 少彦名命

例祭

三月二十五日

由緒

社名を「落合天神社」とも呼んでいる。古くはこの神社は近郷に
まで有名で多数の参詣者があったという。

元和元年辛酉（一六一五年）に、勝山城主鳥居土佐守が勝山城の
鬼門にあたるため、鬼門除けとして社殿を造営し崇拝したとのこ
とである。

当時この社が相当に広大であったとのことである。

鳥居 コンクリート製 朱塗りで、天神社の額が掲げられている。
広い境内の中に、明治百年を記念して地区老人クラブで、数十本
の桜を植樹された。やがて桜の名所となることであろう。

神社名 諏訪神社

鎮座地 都留市川茂一五三番地

祭神 建御名方命

例祭

もとは 三月十七日と九月三日であったが、
今は、四月二十一日と九月二日である。

神事用具

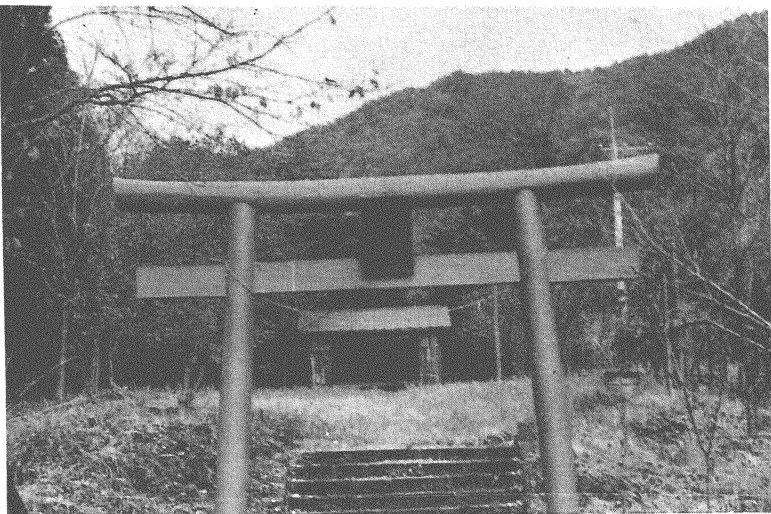
神楽保存。

由緒

宝永二己酉年（一七〇五年）に開墾耕作の神として諏訪明神をま
つる。

甲斐国志には

一〔千方明神〕川茂村 本村産神ナリ云。とあるが諏訪神社のこ
とである。



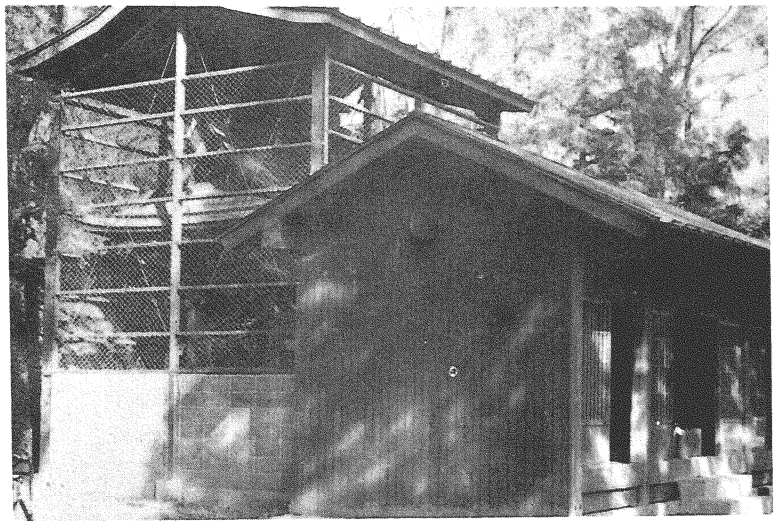
社 殿

本殿 一間社トタン葺

拝殿 切妻トタン葺、三間〓二間、

神庫 一棟 切妻トタン葺 一間〓一間半。

神鏡 二面



と記してある。
明治五年五月村社に列せられている。
山梨県市郡村誌に
〔諏訪社〕 村社々地東西拾六間五尺四寸南北拾間老尺式寸面積
百七拾貳坪本村西北川茂組ニアリ云。とある。

現在の神社は、
天保七^丙申年（
一八三六年）に
改築されたもの
である。
改築棟札に
諏訪大神
棟札之事
棟梁七左衛
門弟子
天野 直兵衛
施主 惣氏子中
天保七^申
年三月廿七
日吉祥

社 殿
本殿 権現造り檜皮葺ヘトタンを被覆してある。
雨屋は鉄骨トタン葺 切妻にて二間半〓二間半である。
拝殿 切妻トタン葺 四間〓二間 廊下を経て本殿に至る。
神庫 一棟 切妻トタン葺 二間〓一間。
鳥居 石造一基 昭和三十五年建立
境内社
天神社 小石祠（もと熊峠に祀ってあったもの）
本殿の四面における彫刻は全部透し彫りで、相当古く壮厳美麗である。

神社名 愛宕社
鎮座地 都留市井倉九鬼二一四番地
祭神 大見土命
例祭 三月二十四日
九月四日の年二回。
由緒



縁由等について
は明らかでない。
南鶴神社誌に
「祭神大見土命
を、別名 火之
夜芸速男神、又
火之迦具土神、
火之炫毘古神、
軻遇突智神等と
いい、中略、火
の神の福なから
んを願いて祀つ
たものなり。」
とある。

社 殿

の碑がある。

入母屋トタン葺、二間〓二間半、
神灯 一对 安永二歳（一七七三年）の建立。
社殿正面に俳句の献額がある（大正十四年）。
神社へ参る道を寺坂といい、神社右側高所に墓地郡がある。寺坂
の寺の跡地に寺小屋師匠「橋本右エ門」嘉永二^己酉年十月十六日